

平成30年度 千早赤阪村立学校園 評価報告書

学校園名（赤阪小学校）

校園長名（春次 秀夫）

1. 教育目標

『人権意識を持ったいじめを許さない学校』

めざす子ども像

『明るく、たくましく困難を乗り越える子』

2. 経営方針

(1) 道徳科の完全実施

- ・ 答えが一つではない課題に対して児童が考え、議論する道徳教育への転換。
- ・ 問題解決的な学習を取り入れ、指導方法を工夫する。
- ・ 道徳科の評価を円滑に実施する。

(2) いじめ指導案件の共有化と迅速な処理。

- ・ いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に取り組む。

(3) 学力向上。

- ・ 基礎学力を養い、自ら進んで学習する態度、習慣を養う。
- ・ 個に応じた指導を充実させ、学習や生活の基礎、基本の徹底を図る

- ・ 教員は積極的に研修に努め、個性ある授業を創造する。
- ・ TM 事業（確かな学び）を中核にし、児童がしっかり発言し、しっかり考え、全国学力学習状況調査の B 問題にも対応できる授業を構築していく。

(4)開かれた学校

- ・ 郷土である大阪府唯一の村、千早赤阪村に愛着と誇りを持つ児童を育成する。

(5)体育やスポーツを通じた健康と体力

- ・ いろんなスポーツに親しみ、生涯を通じて健康で明るい生活を送るための基礎を養う

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		I 学力向上と教育力の充実
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ■ 道徳科の完全実施 <ul style="list-style-type: none"> ・新しい道徳の進捗状況を確認するため、1学期に1～6年生において道徳の授業観察を実施 ・12月には、道徳公開週間を設け、各クラスが道徳の授業を公開する。 ■ コミュニケーションに重点を置いた英語教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・特に本年度赴任した教員の英語学習スキルの定着 ・他地区、他校から来た教員に外国語活動の授業を提供し、村が長年、教育課程特例校として研究してきた成果を府全体に広げる。 ■ 本年度、国語を重点教科とする。TM事業を中心に 研究授業や研修テストの自主問題作成等で指導力向上をめざす。 ■ 自主勉強ノートの活用や自主勉強週間を設定し全校で取り組むことで、児童の自学自習力を育成する。
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 道徳科の完全実施 <ul style="list-style-type: none"> ・全学年で道徳の観察授業の実施。(担任以外は各教科) 全教員、観察記録の配布 ・道徳科の評価についての共通理解 ・道徳科研究授業の実施(3年・伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度) ・12月道徳週間の実施、道徳科の授業、相互参観(全学年) ■ コミュニケーションに重点を置いた英語教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・本年度赴任してきた教員に研究授業実施「主体的で多様な深い学びの追求」(二年) ・校内研修において、大学教授を招聘し、具体的な英語学習の進め方についての研修 ■ 本年度、国語を重点教科とする。TM事業実施 <ul style="list-style-type: none"> ・府の力だめしプリントの実施 ・家庭学習充実を目標とした学習ノートへの取り組み ・学力向上取組みの一つとしての「校内漢字検定」の実施 ・言葉の力の活用報告書作成 ・活用テストの作成・分析(誤答例等) ■ 自主勉強ノートの活用や自主勉強週間を設定 <ul style="list-style-type: none"> ・自学・自習(自主勉強を頑張る週間) …学校通信等で保護者に通知
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ■ 道徳科 <ul style="list-style-type: none"> ・評価の共通理解(どの単元でどのような点が成長したのかを書く。肯定的評価で) ・道徳科の相互参観による授業力と意欲の向上 ■ コミュニケーションに重点を置いた英語教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・大学教授を招聘し、具体的な英語学習の進め方についての研修を受けた結果、平成32年度からの英語科実施に向け、学習内容についてのカリキュラムを考えていく重要性を教員が共有 ・研究授業を実施した教員の授業力向上 ・英語の授業(六年)を八尾市三名、茨木市一名の教員が参観に訪れる。 ■ 本年度、国語を重点教科とする。TM事業実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・本校の言葉の力活用事例が府のホームページに掲載される。(2, 5, 6年)
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・平成32年度の新学習指導要領を見据え、子どもたちが変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや情報を見極め再構成していける教育を推進する。 ・プログラミング教育を始め研修を充実させる ・人権教育で研究授業に取り組む

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		II 豊かでたくましい人間性の育成
P	重点目標	<p>■いじめを始め、生活指導全般において早期発見、未然防止に重点を置き、起こってしまった時には早期解決に全力で取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を抱える児童のアセスメントを SC や SSW の協力を得て把握し、的確な指導に結びつける。 ・少人数の学校の特性を生かして、児童1人1人を大切にする、特に現在、不登校で苦しんでいる児童の支援に全校で取り組む。 <p>■スポーツを通じて健康で明るい生活を送るための基礎を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、今まで実施されていなかった校内マラソン大会を行う。 <p>■千早赤阪村に愛情と誇りを持った児童の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見守り隊、民生児童委員等、地域の方々の力によって守られていることを理解し、感謝の気持ちを持って、地域の人々と接することができるようにする。 ・資料館見学等の歴史学習を通じて、千早赤阪村の文化と伝統を理解する。
D	具体的な取り組み内容	<p>■いじめを始め、生活指導全般において未然防止、早期発見。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の「こころとからだど、くらしアンケート」の実施 ・問題行動になる前に SC や SSW を交えてのいじめ・不登校会議の実施 ・不登校児童への家庭訪問、定期連絡の実施。保護者との連携により毎日の様子の把握。夏休みの補習の実施（プログラム学習・体育・家庭科等）放課後に登校を促し運動の実施。教員の相互連携により時間割を作成し担当教員の確保 <p>■スポーツを通じて健康で明るい生活を送るための基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校庭開放を学校運営で実施 ・本年度、かけ足記録会の実施。保護者参観のお知らせ配布。 <p>■千早赤阪村に愛情と誇りを持った児童の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村の行事（だんじり等）の学校掲示・紹介 ・学校通信によって村の読み聞かせグループ「かりん」さんの紹介 ・村内の社会見学等の実施（成田紙業・日本スエージ工業等） ・児童朝礼の校長講話での見守りたい等の紹介 ・地元の方の学校評議員参加により地域との結びつきが強くなり1，2年生の「芋掘り」を地域で実施することができた。また、学校側からも児童の手紙を製本して送り、結びつきが深まった。
C	自己評価／成果と課題	<p>■いじめを始め、生活指導全般において未然防止、早期発見。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題が発生したときには、教員が協力し対応することができた。 ・不登校の対応では保護者と連携を進めることができ、いくつかの行事にも参加することができた。SC や SSW とも連携することで教員の対応力が向上した。何より不登校対応を教職員が一丸となって取り組めた。 <p>■スポーツを通じての健康で明るい生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度、かけ足記録会や校庭開放に取り組み、保護者アンケートの結果「学校は子どもたちの体力向上・運動についての関心を高める取り組みを行っている」の項目で91パーセントの肯定的意見があった。 <p>■千早赤阪村に愛情と誇りを持った児童の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もともと村への愛着を持った児童であり、さらに深めるには、村で「郷土教育」担当者会議を組織して組織的に取り組む必要がある。

A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none">・来年度、地域教材を生かす一環として一学期に金剛登山を予定している。今まで当校では三年に一回であったが、来年度から毎年登山する計画である。ボランティアを募り、地域の方や保護者との連携をより豊かにして児童の千早赤阪村への愛情をより豊かにしていく。・児童の体力向上と運動への取り組みをもっと進める必要がある。健康体育部でも検討し、縄飛びの練習時間を増やすなどの案が出てきているが、もっと体力向上に力を入れていきたい。・「いじめを許さない学校」を目標に入れている。危機管理を強化し、児童の立場や気持ちを理解するため研修を実施する。
----------	---------	--

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅲ 安全安心な学校づくりの推進
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ■自分の命は自分で守るという観点から、自ら安全に行動できる児童の育成を進める。 <ul style="list-style-type: none"> ・安全教育行事を計画的に実施する。 ・PTA や見守り隊、民生児童委員等と連携し児童の安全を確保する。 ・メールやホームページ等を活用し、危険が予測できるときには、いち早く保護者に連絡する ■防災、防犯研修を充実させる ■通学路及び校区内危険箇所を徹底把握する。 ■安全点検を毎月実施し、教育委員会と連携しながら施設管理を徹底
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ■自ら安全に行動できる児童の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・学校安全の日の設定「防犯ブザー点検」 ・登校指導の日を月1回もうけて教員が交通安全を指導 ■危機管理マニュアルを具体的に改訂し、防災、防犯研修等を実施した <ul style="list-style-type: none"> ・安全教育行事、特に、火災、地震、不審者対応についての避難訓練等を計画的に実施する。 ・防災研修において、避難所等での対応について研修を実施する。 ・警察署の協力のもと、不審者対応や交通安全についての教室を実施する。 ・登下校班への継続的な指導及び登校時の児童の様子把握（登下校時、校長、校務員による交通安全指導） ・子ども安全見守り隊への支援要請（平成30年5月26日「子ども見守り隊」地域ボランティア代表会議開催） ■通学路及び校区内危険箇所を徹底把握する。 <ul style="list-style-type: none"> ・PTAによる危険箇所への設置看板の補修及び新規設置（平成30年6月2日実施） ・教職員での通学路や危険箇所を確認 （本年度、ブロック塀の危険箇所確認。教育委員会に報告済み） ・本年度、保護者の方からの指摘により、登下校路近くにイノシシの存在を確認。学級担任から児童への注意。学校通信でイノシシ出没の時の対策を保護者に提示 ・本年度、夏休み中に赤阪駐在所近くの登下校路に陥没を確認。教育委員会に連絡するとともに修繕されるまで学校で登下校時、安全対策を実施 ■安全点検を毎月実施し、教育委員会と連携しながら施設管理を徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・虐待事案等の早期発見のための教職員の研修 ・学校評議員に保護者・地域の方を加え教員以外の視点から意見を学校運営に取り入れた ・毎月1回、校内の安全点検を実施。職員や校務員による安全点検の実施。予算のかかるものについては、教育委員会に予算要望

<p style="text-align: center;">C</p>	<p style="text-align: center;">自己評価／成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■自ら安全に行動できる児童の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取り組みについては、交通安全以外達成することができた ・通学路や地域の様子については、随時新しい情報管理や共有が必要 ■防災、防犯研修を充実させる <ul style="list-style-type: none"> ・防災アドバイザーに来てもらい、研修の実施。職員の防災意識が向上した ・メール等を使って地震、雷等の自然災害に対応、保護者への連絡を徹底できた ・避難訓練については、概ねできているが、今後、様々なケースを想定した訓練が必要（平成31年度、休み時間を使った訓練等計画中） ■通学路及び校区内危険個所の徹底把握 <ul style="list-style-type: none"> ・集団下校時に危険箇所点検、報告を徹底できた。 ・子ども見守り隊の会議において本年度、赤阪駐在所の警察官に来ていただき地域の実態把握。その後、学校より登下校路の危険箇所を説明。問題点を共有することができた。 ・虐待事案等への情報把握、発信については、今後も教職員の更なる意識高揚も含め、研修が必要である。把握対応システムの構築については検討を続ける。
<p style="text-align: center;">A</p>	<p style="text-align: center;">次年度に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路、危険個所を共有するシステムは構築されている。しかし、自然災害は急にやってくる。緊急時に対応できる組織を構築していく必要がある。 ・学校アンケートの「学校は、安全な登下校ができるよう取り組みを進めている」の項目で肯定的な意見が79%しかなかった。来年度、保護者の理解をいただく努力をしていく ・自転車による交通事故が二件あった。自転車の乗り方、使い方についての取り組みを強化していく。 ・避難訓練で様々な状況を想定した訓練の実施（休み時間、避難経路の変更など）

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		予備（各校独自の重点項目があれば記載）
P	重点目標	該当事項なし
D	具体的な取り組み内容	
C	自己評価／成果と課題	
A	次年度に向けて	

4. 教育自己評価

■学校教育自己診断における学校アンケート（児童、保護者）の結果

本年度、学校アンケートを実施した。【※児童用（4，5，6年）と保護者用】学校アンケートの結果を分析、考察したところ児童アンケートでは、20項目中18項目で8割以上の肯定的な意見があった。特に「地震や火災などが起こった時、どうしたらよいかを教えてもらっている。」など、6項目で90%を超えるプラス評価があった。その結果から考えて概ね教育内容は、充実していると考えている。しかし、保護者には「学校は子どもたちの体力向上・運動についての関心を高める取り組みを行っている」の項目で9割以上に肯定的な意見をもらったが、児童アンケートの「学校は子どもたちの体力向上・運動についての関心を高める取り組みを行っている」では、そのように捉えていない児童が4割近くいた。その結果を受けて、体育の授業や行事に欠けているところはどこなのかを学校でも検証していく必要がある。また、「学習で大人になったときの職業（仕事）について考えることがある。」の項目でも3割以上が肯定的に捉えておらず、今後、キャリア教育の重要性から考えても重点を置いて取り組んでいかなければならない。児童の自由記述に関しては、校則が厳しいという意見が複数あった。なぜ、校則が必要なのか児童と話し合い、児童が考え納得できるようにしていく必要である。

また、保護者アンケートを集計結果でも20項目中17項目で80%以上の肯定的な意見であった。その中でも、学校の基本である「子どもは、楽しく学校に登校している」で96%を始め、5項目で90%を超える肯定的な評価があった。しかし、保護者アンケートの結果においても肯定的な評価が生活指導や下校指導の項目ではそれぞれ、77%、79%、であり、本校の課題として受け止めている。

学校の特色のある教育活動では、大阪府の学校活性化計画の「確かな学び育成事業」を受け、授業改善に取り組んでいるが、「他校にはない特色ある教育活動を行っている」の項目においての肯定的評価が74%しかなく、保護者に理解してもらえる工夫をしていくとともに、もっと地域を生かした行事を取り入れ、保護者のニーズに答える必要があると考えている。

自由記述に関しては、大きく分けて「PTAの公平な分担」「学童について」「特定学年へのご意見」「校庭開放」「教員の指導」「学校での服装」「登校時間」「千早小吹台小学校との交流について」「アンケートについて」などがあつた。もっともな意見が多くあり、いただいたご意見を次年度の教育活動の中で生かしていきたいと考えている。

■学校教育自己診断における学校アンケート（教職員）の結果

（肯定的：「そう思う」「だいたいそう思う」 否定的：「あまりそう思わない」「思わない」）

アンケート項目：「教育活動に関するもの」（38項目） 「学校経営に関するもの」（32項目）

■全項目(70)中、肯定的な回答は53項目で100%でした。また、残りの項目でもほぼ80%以上であった。

【昨年度の結果と比較し肯定的な意見の顕著なもの】

①

- ・（教育相談体制が整備されており、児童は、学級担任以外の教員とも相談することができる）
 - ・（生活指導において、関係諸機関との緊密な連携ができています。）
- それぞれほぼ2倍、3倍に肯定的な意見が増加している。生活指導を中心に不登校等でSC、SSWなどと連携しながら教職員一丸となってやってきたことの評価であると考えている。

②

- ・（学校全体として道徳教育の目標達成のため、道徳教育と各教科での指導との関連をはかっている。）
- 「そう思う」と回答した教員が昨年度の2倍になった。今年度、道徳が教科になったことに合わせて学校では全学年、道徳の観察授業を実施し、12月には道徳週間を学校で位置づけ、教員同士の相互参観にも努めた。また、通知表の表記に関しても教職員間の共通理解を図り、全員が同じ形で児童に道徳の評価を文章で返したことの成果だと思っている。

③

- ・(事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている)
→「そう思う」と答えた教員の割合が昨年度の2倍になった。幸い大きい事故、事件は未然に防止することができた。行動がマニュアル化されており、出張等で管理職や養護教諭がいなくても、同じ対応を取れたことが教員の評価に繋がったと考えている。

【昨年度の結果と比較し、改善が必要なもの】

①

- ・(障害者理解を深め、ノーマライゼーションの理念に基づく社会を築く資質を養うことができるように工夫している)
→昨年比べて「あまりそう思わない」という意見が3倍を超えている。今年度、各教員が研修を通して意識が向上したことが背景の一つと考えているが、障害をハンディキャップと捉えるのではなく個性として捉え、ともに共生していく教育をめざし支援教育に取り組んでいく必要性があると考えている。

②

- ・(子どもたちの安全教育・安全管理を学校として計画的に行っている)
→回答した教職員全員が肯定的な意見ですが、「そう思う」という回答が減り「ややそう思う」という回答が増えました。来年度、自転車の乗り方、使い方を中心に安全教育の徹底に努めたい。

【職員の意見と児童アンケートの結果に差異があるもの】

- ・(児童が将来の進路や生き方について考える機会を多く設けている)
→教職員の意見では昨年度に比べて大幅に改善されている。しかし、児童アンケートの「学習で大人になったときの職業(仕事)について考えることがある」の項目では、3割以上の児童が「あまり思わない」「全く思わない」と答えており、意識にずれがある。来年度は、キャリア教育担当教員を中心に児童の夢が叶い、進路が保証されるよう今年度以上に取り組んでいく。

5. 学校園関係者評価

学校評議員評価

平成30年度は1回目30年7月5日、2回目平成31年2月5日の2回に分けて学校評議委員会を開催した。外部からの客観的な意見をもらい学校を活性化するのが狙いである。3名の評議員から下記のような意見をいただいた。3名の内、1名には学校に来ていただき授業を参観してもらった。

・「いじめ防止について」

いじめは全国的に問題になってきている。どの学級においても何もしなければいじめは起こる。問題が発生したときいじめる側の児童の保護者が指導に関してクレームを言ったときでも、学校は客観的な事実に基づいて毅然とした態度で対応し、いじめ根絶に取り組んで欲しい。

・「千早赤阪村の郷土教材の活用について」

千早赤阪村には、楠木正成という地域の誇りがある。それをぜひ、学校教育でも取り入れて欲しい。村には、だんじり、祭を始めいろんな行事がある。それを児童にも知らせ、参加を促すことが大事ではないか。

「赤阪音頭」という音楽がある。それを地区で活用したい。CDや歌詞があれば祭で使い児童にも知って欲しいと思っている。

・「村の英語教育について」

学校から村の英語教育は、大阪の中でも先進的だと聞いた。これからは、グローバルな世界になっていくので英語は益々重要視されていく。今後とも重点的に取り組んで欲しい。

・「虐待について」

児童虐待がニュースになっている。赤阪小学校の実態はどうか。子どもが減ってきて、今まで以上に一人ひとりに注意を払い見ていかなければならない。外部と連携しながら虐待で心が傷つく子や命を落とす子がいないようにして欲しい。

・「校庭開放の継続について」

P T Aで校庭開放をしていたときは、「P T A校庭開放協力のお願ひ」のプリントを配布してもなかなか協力がもらえなかった。学校も大変だとは思いますが赤阪小学校校区は大きな公園がなく、遊ぶところがないので何とか続けていって欲しい。

・「授業参観を行った感想」

どの学級も先生方が一生懸命授業をしている。また、掲示板に上手にまとめているノートが掲示されていた。とてもいいことである。これからも児童一人ひとりを大切にした学校作りを進めて欲しい。

その他、現在のクラスの様子や体育での取り組み、T M事業への質問などがあった。

スクールソーシャルワーカー及びスクールカウンセラー評価

「不登校対応について」

・学校一丸となって素晴らしい取り組みをしている。定期的に時間をもち、また、何かある時にも組織的に行動できている。